

広域抗菌薬開始前の血液培養提出率

● 説明

広域抗菌薬を使用し続けると、耐性菌が増え、治療する選択の幅が少なくなります。抗菌薬を適正に使用するためには、血液培養を行い、どのような細菌が原因であるのかを調べるのが重要です。広域抗菌薬を開始する前にどの程度血液培養が提出されているかを調べることで、抗菌薬が適正に使用されているかを評価します。

● 計算式

$$\text{QI} = \frac{\text{広域抗菌薬開始日あるいはその前日に血液培養が提出された症例数}}{\text{広域抗菌薬（抗緑膿菌薬、抗MRSA薬）を開始した症例数}} \times 100$$

（対象外：感染症内科併診、予防投与）

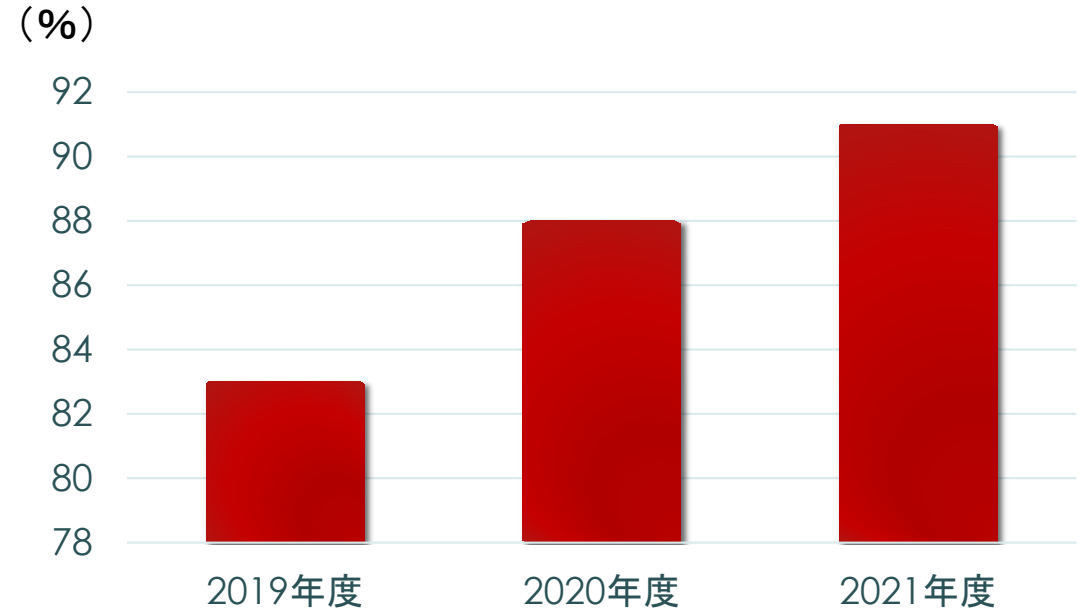
● 目標

当院では、血液培養を提出する意義について、講習会を通じて周知するとともに、医師へ直接連絡を行っています。当院における広域抗菌薬開始前の血液培養提出率は年々増加しており、現状を維持できるよう努めてまいります。

● 計画

講習会や医師への連絡を通じて、血液培養提出率の向上に努めてまいります。

● 実績



● 評価

広域抗菌薬開始前の血液培養提出率と同様の指標について、他院の様々な報告があり、数値は58%～76%と幅があります。当院では現在80%以上を維持しており、抗菌薬が適切に使用されていることが示唆されます。